

毎日新聞

小学生音楽新聞

きよつこの紙面



4◎音楽

上手に楽器を演奏したり、コンサートに行ったりするだけが、音楽の楽しみではありません。「音楽を楽しいと感じたら音楽」という、ユニークな授業を紹介しましょう。
【木村葉子、写真も】

「じゃあ、音を聴いてみよう」。
東京都練馬区立仲町小学校の5年生の音楽の授業で、横川雅之先生(54)が呼び掛けました。すると子どもたちは、いっせいにいすに顔をつけて伏せます。
目を閉じて、耳を澄ませます。教室がとても静かになりました。先生が続けて言います。



聴き終わると、感想を発表します。「水の音。ブクブクした感じ」「水の中で泡が勢いよく出ている」「水の中でいろいろな音を楽しんで、水面が上がっていすに顔を伏せ、静かに音を聴く姿勢をとる子どもたち。耳元で横川先生がびんをこすり合わせます

鳴らして聴いて

音を楽しもう

「どんなことが感じられるか、頭の中で風景を思い浮かべて。前に聴いた音でも、今日の自分の心の状態で感じ方が違うよ。後で感じたことを覚えてね」
足音がしないよう靴を脱いだ先生は、次々にいろいろな物を鳴らしま

「ビュリ」「カロカラ カロカラ」。不思議な音を作り出されます。
感じ方さまざま

「大きな金属製のポウル、長方形」
「ポワン」「ピロピロ」「コンコロ」「ゴリビュリ」「ゴリビュリ」「カロカラ カロカラ」。不思議な音を作り出されます。離れていては聞こえないような、小さな小さな音もありました。「カエルが鳴いているみたい」「鳥が鳴いているみたいだった」。同じような音を聴いているのに、感じ方はさまざまです。
「音は気持ちを向けないと聞こえてきません。楽器の演奏だけでなく、自然の中にも楽しめる音はたくさんあります。横川先生はそう教えてくださいました。」

「音を聴きました。いすに伏せている子どもたちの耳元で音を鳴らしていきます。葉っぱをこすり合わせたり、フィルムケースのふたを開け閉めしたり、バネをはじいたり。離れていては聞こえないような、小さな小さな音もありました。「カエルが鳴いているみたい」「鳥が鳴いているみたいだった」。同じような音を聴いているのに、感じ方はさまざまです。
「音は気持ちを向けないと聞こえてきません。楽器の演奏だけでなく、自然の中にも楽しめる音はたくさんあります。横川先生はそう教えてくださいました。」

2面につづく